

特定非営利活動法人 石川県自然史センター

第 32 回公開シンポジウム

# いしかわの環境保全と自然災害 人との共生について考える

石川県には白山・能登半島をはじめとする多様で豊かな自然環境があり、そこに様々なユニークな生き物が育くまれている。しかし開発の進行や里山の放棄により、かつて狩猟などで個体数が管理されてきた野生動物の個体数が急激に増加し、人間の生活環境を脅かす事態が発生するようになってきた。その典型例がイノシシやツキノワグマであり、特に令和5年は全国的にツキノワグマによる人身事故・死亡事故が増加し、石川県で3件の人身事故が発生した。

また令和6年1月1日には能登半島でM7.6の大地震が発生し、最大震度7に達する強烈な振動と津波により家屋の倒壊、流失など甚大な被害が発生した。普段は穏やかな里山・里海も、牙をむき裏山が崩れ、津波となって沿岸集落を襲う。

このように我々に数多くの恩恵を与えてくれる自然も、時には私たちに脅威を与える存在となる。今後こうした事態に備えて私たちはどのように自然と向き合い、共生を考えてゆくかについて基調講演と話題提供を頂き、皆さんで考えていきたい。

日時 令和6年3月2日(土) 14時～16時10分 (受付13時30分)

場所 石川県立自然史資料館 2階コミュニケーションホール

内容 基調講演

「令和クマ嵐から考えるクマとの共存」 石川県立大学特任教授 大井 徹氏  
報告

①「環境DNAによる能登の河川の魚類相調査」 七尾高校 SSC 部

②「能登半島における生物多様性に関する取り組みと今後の復興に向けて」  
国連大学 ISA いしかわかなざわ・オペレーティング・ユニット 小山 明子氏

③「地震による隆起が潮間帯生物に与える影響」  
のと海洋ふれあいセンター 東出 幸真氏